

1. 評価結果概要表

作成日 2008年3月25日

【評価実施概要】

事業所番号	0871200416
法人名	有限会社 梨花園
事業所名	グループホーム 梨花園
所在地 (電話番号)	茨城県常陸太田市上土木内町382 (電話)0294-74-4578

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年1月28日	評価確定日	平成20年6月4日

【情報提供票より】(平成19年12月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 7 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤	7人, 非常勤 13人, 常勤換算 人

(2)建物概要

建物形態	併設/ 単独	新築 /改築
建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500 円			

(4)利用者の概要(11月30日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	1 名	要介護2	7 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.1 歳	最低	68 歳	最高	92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	久慈茅根病院・永井歯科クリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは昔ながらの家が建ち並び、周辺には田畑が広がり自然豊かな環境にある。管理者は、在宅介護の経験が長く介護技術・知識が豊富であり、ホーム内の勉強会も充実している。利用者に対する職員の対応はとても優しく丁寧であり、このホームで生活する利用者は穏やかで、それぞれが読書したり、音楽を聴いたりと思いいいに過ごされていた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で介護計画の見直し改善課題としてあげられていたが、その後定期的にモニタリングを行い、会議の記録もされており、全職員に回覧し周知徹底を図っていた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員の意見を取りまとめて行われていた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月ごとに、町内会や行政・利用者家族などが参加し、ホームの外部評価の公表や行事内容の報告、運営などについて討議しており、会議録も作成されている。会議を開催することで、地域のホームに対する理解が少しずつ深まってきている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱を設置したり、面会時に意見等を聞くようにし、積極的に働きかけをしている。今後、家族会を早期に発足することで、多くの意見が集められ運営に反映することを期待する。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームの行事等に参加の呼びかけを行ったりしながら、地域との連携が密になるように積極的に働きかけている。近隣小学校で行われる敬老会や、公民館で行われる三世交代交流会に参加したり、散歩中に近隣農家から農作物をいただいたりと、地域との交流がある。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で話し合い、ホームの理念をつくりあげている。		地域密着型サービスへの移行に伴い、今後は地域住民との交流を視野に入れた運営理念の追加を検討していくとの事。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の研修会などを通して、全職員が理念を共有できるように取り組んでいる。また、職員のネームプレート裏には縮小版に印刷された理念があり、いつでも読み返すことができるようになっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣小学校で行われる行事や、公民館で行われる三世代交流会などに参加している。ボランティアの来訪や、散歩中に近隣農家が農作物をおすそ分けして頂いたり、地元の方との交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で明らかになった課題に対し、改善計画シートを作成し、取り組んでいた。自己評価については、全職員の意見を取りまとめた行った。		外部評価の結果を出来るだけ多くの関係者に開示し、新たな改善点を関係者が共有できることが望ましい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の頻度で開催され、行政や町内会・利用者や利用者の家族から、意見や助言をいただいている。		

茨城県 グループホーム梨花園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に市役所へ状況報告を行い、要介護認定情報の開示などで頻りに足を運んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時や電話連絡で報告している。月1回園だよりを作成し、コメントを添えて送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが意見は特になく、家族会も発足に向けて取り組んでいる段階である。	○	家族から意見を多く集める方法について、今後検討を重ねていただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職を防ぐため、申し出があった時などは勤務時間の変更など、防止に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた研修に参加する機会があり、また事業所内の勉強会も充実しており、参加した職員の自己評価も行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内6ヶ所にあるグループホームが連携し、グループホーム連絡協議会が設置されたが、その活動は未知数である。		他のグループホームと共同で実施する企画が出来るよう、今後の盛り上げりに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者に対しては、体験利用などを行い円滑に利用できるよう援助が可能になっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を深く尊敬し、利用者とのかかわりの中で学ぶ機会も多く、また自己を見つめなおす機会にもなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式アセスメントを活用し、主に利用者の思いや意向に焦点をあてた聞き取りが行われており、その記録も残されていた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者と計画作成者が中心となり、利用者・家族、その他関係者から意見を取り入れながら介護計画を作成し、同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに担当職員が利用者から聞き取りを行い、それをもとに介護計画の見直しを行っている。モニタリングシートやサービス担当者会議は、全職員に回覧し周知徹底を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や入院時の衣類洗濯など、遠方に住む家族に代わって、支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師や歯科医師の訪問診療が月1回あり、それ以外にも外来受診の援助を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状態が重度化した場合に備えて、その対応に関する指針と同意書を利用者・家族と取り交わしている。	○	終末期に関するケアの方向性をホーム全体で共有し、職員が安心してケアに取り組める環境づくりが求められる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への言葉かけはとでも配慮されており、利用者や家族からの相談があった場合には相談室を使って応対している。個人情報に関する取り扱いに対しても、利用者や家族から同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ベット上で読書を楽しむ方や、音楽を鑑賞されている方など利用者は皆思い思いに過ごしていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや配膳・後片付けを一緒に行ったり、職員も同じテーブルで食事を共にしたりと、食事を楽しめるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日が決まっているが、利用者の希望に応じた対応が出来るようになっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	配膳の仕事や軽い荷物の整理・ごみ出しや茶碗洗いなど個々人の力を活かした役割がある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買物に出かけたり、外食やぶどう狩りに行ったりなど、利用者がホーム外に出る機会を多く確保している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠されている箇所は確認されず、玄関はいつでも自由に入出入り出来るようになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練や避難訓練などを定期的に行い、地域の民生委員にも働きかけ、協力を得られるように体制が整備されている。		食料品や医療品の備蓄について、可能な限り準備しておくことが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の記録も毎日行われており、一人ひとりの状態に応じた支援が出来ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井の高いリビングには太陽が射し込み、窓からは外の景色が見られ季節感が十分味わえる。		浴室やトイレの冷暖房が整備されることで、より快適な居住空間が出来上がると思われる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾ったり、使い慣れた愛用品が置かれ、居心地の良い空間作りがなされている。		